

高齢者の肺炎球菌感染症

肺炎は、日本人の死因の第3位であり、死亡者の95%以上が65歳以上の方です。肺炎で一番多い病原菌は肺炎球菌です、肺炎球菌は、鼻やのどの奥に付きやすい細菌のひとつですが、健康で体力のある状態ならば十分な免疫があるため、感染症を引き起こすことはありません。しかし、体調をくずすなど何らかの原因で免疫力が低下していたり、風邪を引いた後などに、肺炎や髄膜炎、敗血症、中耳炎などを発症する場合があります。